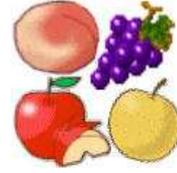




平成25年度 果樹情報 第13号

(平成25年9月25日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (9月前半：果樹研究所)

9月1～3半旬の平均気温は、1半旬が24.5℃で平年より0.6℃高く、2半旬が21.3℃で平年より1.3℃低く、3半旬が23.8℃で平年より2.4℃高い状況でした。この期間の降水量は117.5mmで平年の149%でした。

2 土壌の水分状況 (9月17日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培りんご園) は、深さ20cmが1.8、40cmが1.0、60cmが1.5で、深さ20cmは適湿状態、40cm以下はやや過湿傾向となっています。

3 生育状況 (果樹研究所)

(1) もも

ア 収穫期と果実品質

「川中島白桃」の収穫始めは8月23日、収穫盛りは8月26日でともに平年より2日早い状況でした。また、果実の大きさは413g (平年314g) で平年より大きく、糖度は12.6 (平年12.9) で平年より低い状況でした。

「ゆうぞら」の収穫始めは8月29日で平年より3日早く、収穫盛りは9月1日で平年より4日早い状況でした。果実の大きさは355g (平年314g) と平年より大きく、糖度は13.3 (平年12.7) と平年より高い状況でした。

晩生品種は、収穫前の降雨の影響により、収穫前落果が多い傾向にありました。

(2) なし

ア 果実肥大 (9月13日現在)

「豊水」の果実肥大を暦日で比較すると、縦径が78.8mmで平年比101%、横径が92.5mmで平年比103%とほぼ平年並みの状況です。また、満開後日数による比較では平年よりやや大きい状況です。

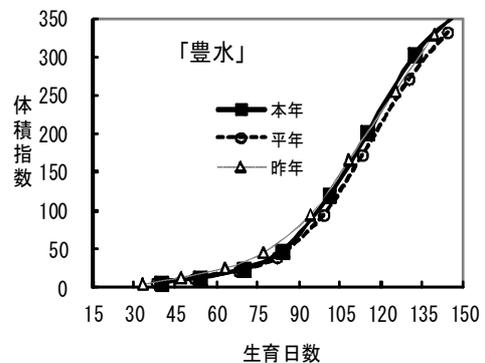


図1 なしの果実肥大 (満開後日数比較)

イ 主要品種の収穫期と果実品質

「幸水」の収穫始めは8月23日、収穫盛りは8月29日でともに平年より4日早い状況でした。また、果実の大きさは358g (平年373g) で平年よりやや小さく、糖度は12.4 (平年12.6) でほぼ平年並みの状況でした。

「豊水」の収穫始めは9月12日で平年より3日早い状況でした。

ウ 「豊水」の成熟経過 (満開後144日現在)

9月13日における成熟調査の結果では、果実硬度は4.6ポンドでほぼ平年並、糖度は12.4で平年よりやや低く、リンゴ酸含量は0.16%で平年より高い状況でした。果皮中のクロロフィル含量は平年より低い状況でした。

(3) りんご

ア 果実肥大（9月13日現在）

「ふじ」の果実肥大を暦日で比較すると、縦径が75.0mmで平年比99%、横径が82.3mmで平年比101%と平年並みの状況です。

また、満開後日数による比較でも、平年並みの状況です。

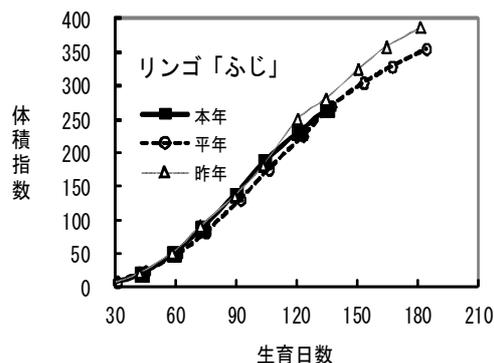


図2 りんごの果実肥大（満開後日数比較）

イ 「ふじ」の裂果発生状況（満開後133日現在）

9月13日における「ふじ」/マルバの外部裂果の発生率は14.3%（昨年2%）、裂果発生率（外部裂果、内部裂果の合計）は34.7%（昨年25%）で、昨年より発生が多い状況でした。

(4) ぶどう

ア 「巨峰」の果実品質

無核栽培（長梢せん定）の果実品質は、果房重が489g（平年379g）と平年より大きく、一粒重は10.7g（平年12.0g）と平年より小さく、糖度は15.5（平年17.0）と平年より低い状況でした。

有核栽培（長梢せん定）の果実品質は、果房重が417g（平年342g）と平年より大きく、一粒重は10.0g（平年11.5g）と平年より小さく、糖度は20.0（平年19.2）と平年よりやや高い状況でした。

4 栽培上の留意点

(1) もも

ア 秋肥の施用

9月のできるだけ早い時期に秋肥を実施し、樹勢の回復に努めましょう。秋肥は尿素を中心に速効性肥料を用い、窒素成分で7kg/10a程度を目安に施用しましょう（施肥の詳細は、本情報第12号を参照）。

イ 秋季せん定

若木などで樹勢が強く徒長枝の発生が多い樹では、9月中旬頃（徒長枝が太る前）までに秋季せん定を実施しましょう。

主枝、亜主枝の日焼け防止を目的に配置した背面枝が長大化している場合は、基部の新梢発生位置まで切り詰めるか、数芽を残して短切しましょう。なお、樹勢が中庸な樹や弱い樹では葉数確保を優先し、秋季せん定を実施しないか、もしくは最小限としましょう。また、樹冠上部の発育枝は樹勢を維持するためにできるだけ残しましょう。

(2) なし

ア 収穫期

「あきづき」の収穫は、地色指数（日本なし用カラーチャート）で3.5～4の果実が糖度や食味の点で優れますので、地色指数を目安に収穫を実施しましょう。なお、地色指数が4を越えると糖度は高くなるものの果肉硬度が低下する傾向があるため、収穫が遅れないように注意しましょう。

(3) りんご

ア 中生種の収穫前管理と収穫

中生品種は、平年と比較して果肉硬度が低い傾向にあります。各品種の生育状況に合わせ、

摘葉や玉回し等の着色管理を遅れないように実施しましょう。

また、収穫は、地色等の推移に十分注意し適期収穫に努めましょう。

イ 「ふじ」の栽培管理

「ふじ」の摘葉は10月上中旬頃から実施しますが、栽培面積が多い場合は9月下旬頃から実施しましょう。この場合は、軽く実施し（3～4枚）、10月中～下旬に再度強めに行いましょう。

(4) ぶどう

ア 収穫期

収穫が遅れると果肉が柔らかくなるなど果実品質を低下させる原因となるため、適期収穫に努めましょう。

イ 秋肥

9月は、秋根が活発に伸びる時期となります。養分吸収の盛んなこの時期に秋肥を施用し、貯蔵養分の蓄積を図りましょう。ただし、新梢の遅伸びにも影響するので、園地の新梢の停止状況、葉色、新梢の登熟程度などをよく観察して施肥量を判断しましょう。

肥料は尿素などの速効性肥料を用いて、窒素成分で2kg/10aを目安に施用しましょう。

なお、樹勢が強い（葉色が濃く、遅伸びしているような新梢が多い）場合には、秋肥の施用は控えましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア りんごの各種病害

9月中旬以降、降雨により湿度が高い状態が続くと、褐斑病、すす点病、すす斑病の防除が必要となりますので徹底しましょう。

また、中生種の「陽光」や「ジョナゴールド」などで炭疽病が認められる場合、二次感染により発生が拡大するおそれがあるため、罹病果は見つけ次第速やかに除去しましょう。

イ モモせん孔細菌病

県内の発生量は平年よりやや多くなることが予想されますので（病虫害防除所による9月17日付、病虫害発生予察情報）、収穫終了後に秋季防除を必ず2回実施しましょう。新梢葉や果実での発生が多かった場合は、落葉前までにさらに1回秋季防除を追加して（計3回）感染防止、越冬菌密度の低下を図りましょう。

ウ ナシ黒星病

浜通りでの発生量がやや多い状況となっています（病虫害防除所による9月17日付、病虫害発生予察情報）。

本病の発生が多かった園では越冬菌密度の低下を図るため、「豊水」の収穫後（9月下旬～10月下旬）に2回目の秋季防除を必ず実施しましょう。なお、枝の先端まで薬液が十分量到達するように散布を行いましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

密度が高いもも園では、越冬密度低下のため収穫後も防除を実施しましょう。

イ コスカシバ

本種による被害が多いもも園では、収穫後（9月中旬～下旬頃）に枝幹部への薬剤散布を徹底しましょう。

ウ クワコナカイガラムシ

発生の多い園では9月下旬頃までにバンド誘殺のためのバンドを設置しましょう。

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=22752#gijyutsujyohou

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>